

以降も、会員相互の融和団結を図り、現職隊員とのつながりを広げつつ、各地慰霊祭で英霊に敬意を表し、講話等により安全保障関連の普及を図り、創立記念行事及び追悼式での現役支援に尽力する所存である。

懇親会参加者（既出者を除く）は、75
小島肇・井上和男・相馬隆義・鎌田順一朗・齋藤修二、76佐々木政弘、86斗賀山信美、104北田勝二、俱知安駐屯地司令田中2佐、東千歳駐屯地菅原隊員

（73細島邦夫 記）

広島県偕行会 令和7年度の集い

広島県偕行会は、令和7年12月1日（月）、11時半から12時半過ぎにかけて、総会及び懇親会の、楽しい集まりを開きました。

会場は、全国でも珍しい市内電車が自然に2階に上がる広島駅の北側・新幹線口の、道路越しの北西「グラノード広島」の2階、居酒屋「八香閣」の一部屋でした。会費は、5500円（年会費、懇親会費、玉串料等を含む）でした。

お集まりの面々は、井上廣司会長（陸士61の戸塚新さん亡き後の満3年間、平成30年夏までの『偕行』編集委員長、陸自72、写真前列左から3番目）を初めてして、木船久幸（陸自68、後列4）、田所恒之輔（陸自69、後列1）、奥田虎昭（陸

自70、前列4）、中川強（陸自78）、嶋田正志（陸自95、後列2）、山崎満（陸自98、後列3）、次いで、旧軍の、6年前まで赤いカープの帽子をかぶって来ておられた野坂辰夫（陸士59、前列2）と私、高崎禎夫副会長（広幼48、前列1）の、総勢9名でした。

この中、今総会の議決によって、昨年6月13日に死亡された前「副会長」綿貫昌芳さんに代わって、木船久幸事務局長が、新「副会長」に、また、嶋田正志事務局長が、新「事務局長」に選任されました。

懇親会は、豊かな食事をしつつ、新しい木船副会長・嶋田事務局長の優れた采配の元、各自の近況報告を含む、明るいご発言が相次ぎ、まこと、心なごむ語らいの場となりました。

大正15年1月5日生まれ、後1か月で満百歳になられる野坂辰夫さんは、前月中旬のお地元の「今年度創生俳句大会」で、ご自作「産声は世界共通秋高し」が目出度く第2位に選ばれて、その賞状をご披露されました。

野坂さんの5歳年下、昭和6年生まれの、不肖、私は、大東亜戦争の真珠湾攻撃、昭和16年12月8日が、今年の今月と同じ「月曜日」であったことに触れ、私は当時、国民学校5年生、先生方は職員室のラジオの「臨時ニュース」にしがみつき、しばらくして教室に現われ、この

日は休みになったことをお告げになりましたこと、アメリカは、この日、日付変更線のため、「日曜日」であったことなどを、話しました。

その他、田所明神社の宮司・田所恒之輔さんは、ご自分が解読された古文書や公的資料によられて、今年も、安芸国の歴史と伝統文化を伝える、新しいDVDを、全員にお配りされました。

写真には写っていませんが、丸善工業営業企画部長・中川強さんは、防大同窓会理事かつ隊友会理事（防災士）です。

そして最後は、私による、本会の現在・未来の弥栄を祈つての万歳三唱を以て、笑顔のうちに、再会を期し、集合写真を撮った後、散会しました。

（副会長 高崎禎夫 広幼48）

